

改教時報

第五號

明治三十三年三月一日 敬元

佛教徒國民同盟會綱領

- 一、本會は佛教徒國民同盟會と稱す
- 二、本會は僧侶を除き佛教各宗信徒及通佛教的道徳の感化を受けたるものを以て組織す
- 三、本會の目的は佛教本來の面目を發揮し其感化によりて先づ國民の一致力を鞏固にし漸く富國の術を講じて國家の獨立と社會の文明とに資せんとするにあり
- 四、右の目的を達せんが爲に本會が着手すべき事業の方針を定むること左の如し
 - (イ) 各宗管長及各宗高徳に本會の贊助を求むること
 - (ロ) 各宗僧侶を獎勵し其學徳を修め其品位を高めしめ又其從來の悪弊を改善せしむること
 - (ハ) 政府をして公認教の制度を立てしむること
 - (ニ) 政府をして速かに非公認教に對する處置を明了ならしむること
 - (ホ) 政府をして公認教を保護せしむること
 - (ヘ) 又其監督を嚴にせしむること
 - (ニ) 殖産興業の道を講ずること
 - (ト) 社會問題を研究し社會的慈善的事業を興すこと
 - (チ) 新聞雜誌其他有益の書籍類を發行すること
- 五、本會は佛教各宗の合同は勿論他宗教と雖宗義及宗制上我國體と衝突せざる宗派に相提携して社會の改善を謀らんことを期す

目次

社説
運動の本旨を誤る勿れ

論説

◎大なる結合力
◎此一年を如何にせんとするか

會報

◎北陸 江沼佛徒同盟會發會式◎富山縣下の運動◎能美佛徒同盟會發會式◎武生佛徒同盟會

◎關西 高島是真會◎東淺井郡の有志◎伊庭佛教青年會◎伊勢大派同志會

◎參州 三河護法會◎岡崎各宗合同會◎佛教進智會◎三參佛教會

◎九州と中國 福岡縣の有志◎廣島縣の有志◎佛教青年會員の歸國

◎東北と北海道 佛教振起會◎北秋佛教會◎北海道の有志

◎關東 常州地方の運動

社會
◎大日本佛教青年會臨時會◎第八回夏期講習會◎第八回釋尊降誕會◎教導講習院の組織◎仁慈女學院の開設◎宗教に關する質問書◎アイヌ語學者としての一宣教師◎瓜生慈善會

雜誌
◎基督教傳道の教域

信界
◎靜觀錄

◎外柔にして内剛なるべし 文學士近角 常觀

◎明岩の大慈母瓜生岩子刀自 文學士常盤 榎丘

廣告數件

政 教 時 報

運動の本旨を誤るる勿れ

今日の佛敎界の状況を論ずれば、猶熟睡中に突然火災の警鐘を聞きたるが如し、火の手近きものは驚き起ち、火の手遠きものは眼を開けざるも尙構臥せり、近來佛敎が政治上に於て其機能を侵略せらるること多きは、尙大火の其領内に起りたるが如し、然れども佛敎者は睡眠せり、全体を擧げて火の手に盛んなれるを知るものなし、然るに巢鴨問題の警鐘は忽ち佛敎の耳朶に達し、火の手に近き大谷派は先づ奮起したれども他宗他派の之に同情を表するもの甚だ少なし、即ち之を對岸の火災なりとして眼を開きつゝ、構臥するものなり、巢鴨問題を他岸の火災なりとするは、一方より見れば義侠心に乏しく、一方より見れば我家の火災を自覺せざるもの吾人は佛敎として大に之を警醒せざるべからず然れども其奮起したる者の舉動も亦感服し難きものあり、何となれば其力を盡す所は只巢鴨問題と宗教法案とにあればなり、凡そ火を防がんと欲せば、先づ火防具を用意して之に向はざるべからず、裸體赤手にして大火を鎮せんとするは愚者に非ずんば狂者のみ、大谷派本願寺が巢鴨問題に付て熱中したるは、其勇氣に於て大に予輩の同情を表する所なり、然れども巢鴨問題、政教問題のみに專注して他を顧みずんば、是予輩の大に取らざる所なり、巢鴨問題の如き、政教問題の如き固より天下の公論な

り、殊に政教問題の如き、今後整々堂々條理のある處を論究し、飽く其主義の推行を期すべし、巢鴨問題の如き昨午已降吾人も現當局者に向て談判を試むること數十回、今や正に最後の結末を告ぐべきの時に際す、政府愈佛敎者の意志を容れず、政府が監獄教誨に關して宗教者を聘するの禮を以てせずは、須らく斷々乎として全國監獄教誨師の引上げを命じて其結末を告げ、其資本を傾注して、専ら社會事業教育事業を起して、他の暗黒なる社會に向て佛光を被らしむべし、世人亦之に同情を表するに至るべし、予輩は此際於て切に各宗本山に忠告せんとするものあり、他亦し、先づ完全なる宗教學校を起し、精神的敎育を盛にし、若し餘資あらば女學校を設立することは是なり、現今佛敎中或宗派の如きは高等なる普通敎育を施すの學校を有せ、然れども是等の學校には僅かに精神的敎育の欠乏せるを見る、是れ其學生の氣風が柔弱なるを以ても知るべきなり、彼等の中には果して絶海の孤島に病者を看護するの英傑あるか、各宗本山皆佛學専門の道場を有す、然れども其普通學に暗くして世界の大勢に疎き學生は果して暗黒世界に禽獸同等の人種を友とせしパーマーストンのことを知るか、今日佛敎の無氣力は寧ろ老僧に非ずして青年にあり、實に是れ精神的敎育欠乏の結果なり、現今我國の文化駸々として進むに拘らず、議會は未だ敎育普及の必要を知らず、狹りに敎育費を減するを以て能事となし、女子敎育の如き又甚だ微々たるものなり、若し夫れ佛敎にして女子敎育の爲に盡碎するあらば、是れ直接に國家を光明に導くも

大なる結合力

廣 田 一 乘

論 說

のなり、若し佛敎にして僧侶の精神的敎育を振興せば、其感化を受けたる青年僧侶が、社會に貢獻する所多きが故に是れ間接に社會を光明に導くものなり、一方には敎育を興し一方には政教問題を論ずる、是れ實に火防具を具へて火災を鎮せんとするものなり、然らずんば徒らに赤手裸體の狂者にして終らんのみ、我國民同盟會員の如き、運動の本旨とする所は監獄問題のみに非ざるなり、宗教問題のみに非ざるあり、主眼とする所實に佛敎をして實力を供へしめんとするにあり、實力とは何ぞや、曰く社會事業、慈善事業を起し、又敎育を普及し、佛敎相互の弊害を矯正せんとすることは是なり、若し同盟會にして其運動徒らに政教問題に止まらしめば、是亦裸體赤手にして大火を鎮せんとするの狂者のみ、愚者のみ、今や各地同盟會齟齬として起らむとす、幸に同愛諸士先づ眼光を社會的方向に注ぎ、敎育事業慈善事業を起して、佛敎界に向て新氣風を鼓舞せられむこと、洵に切望に堪へざるなり。

論 說

虎狼には鋭き牙あり、鷹鷂には利き爪あり、此爪此牙に依りて、掠奪自衛の道を立つ、或者は美なる音聲を持ち或者は麗しき羽毛を被て、能く其種の繁殖を計る之等の利益と粧飾とを欠損せる吾人々類が、彼等禽獸と相對峙して、此生存競争場裏に、優に其主位を占め得るもの、抑々如何

大なる自然の賜物として、吾等に特有の理性は、以て敵を防ぎ、以て多幸なる生活を送る可き、有力なる武器となる。貴重なる此賜物も、個々別用せる間は、未だ其眞價を表し得ず、之れを協合し、長短相融通して、茲に無限の働を造出す。是人類が社會的動物と稱せらるる所以にして、之を交換する區域の大小は、文明野蠻の分るる所となる。又此賜物を發達開導せしむる爲には、長き歲月と適宜の方法とを要す、家族制度の要實に茲に存し、世の進むと共に其期愈々増長す、吾等が天品を開發し、完全なる人道を養成するは、此時期にあるなり。

之等の家族は、相集まりて村をなし郡を作り、終に大團體たる一國を形成するに至る、然らば一國とは、唯漫然たる人民の集合にあらず、幾百平若くは幾千年を経過し、其長歲月間に、漸次構造せる其國特種の風俗習慣を始め、統治者及臣民との間に存する歴史相互の志想を通ずる機關たる言語を同ふる事は、國家成立の上に欠く可からざる「セメント」となるなり。

其他此種の結合力を數へ來らば、二三にして止まらざらんも、特に警告せんとする所のものは、之等の内にても尤も強力なる結合力、即ち信仰力の存する事を知らしめんと欲す。

今日に於ては政教分離とて、兩者の間には其職權明かに區畫せられ居るも、昔時は國の東西を論せず、政治は勿論、百般的儀式風俗は、何れも其源を宗教に發せしなり、其當時は固より宗派僧俗の區別なく、祭主即君主にして信徒即臣

民あり、神の祭事は、一國若くは一部落の最重要事件として、百姓擧つて之を執行すべき義務を有せり、世進み社會複雑なるに從ふて、祭事禮拜の事は、或一部の手に委することとなり、神官若くは僧侶の階級出づるに至れり、之より其教義儀式は漸次深遠緻密となり、終に今日の所謂宗教なるもの形成せり、其内に於て一國民、若くは一階級の人民のみに行はる特別の宗教あり、猶太教婆羅門教の如きは是なり、之等は其榮枯盛衰を其種族と相共にす、之に反して佛敎耶穌教、若くは摩哈默多の如きは、世界宗教として何れの國民、何れの種族にも、弘通し得可き普遍的性質を有す、今日三大宗教として、廣く世界に行はるる所以なり。

然れども以上所陳の如く、何れの國にも、各自特別の歴史及風俗習慣を有す、其思想從ふて相同じからずとせば、假令其宗教に於て普遍的なるにもせよ、之を一國の宗教となして、其國民の精神界を統治せしめん爲には、其体形をして大に其國風に相應せしめざる可からず、是同一耶穌敎にして希臘教あり羅馬教あり、將た英國教ありて其趣互に同じからず、佛敎に於ても印度支那日本等、自から差別を生ずるを見る、之を慮らず暴威に依り、若くは當路者の不注意に依りて、遽かに新舊異宗教を接觸せしめんか、茲に恐る可き紛争擾亂を造出し、其結果は一國の浮沈に關係せる事、東西各國の歴史に於て屢々實見する所なり。

其衝突をして去かく激甚ならしむるは、是宗教の信仰が深く人心に貫通し、其が爲には財を忘れ家族を捨て、喜んで水火

の中に突進せしむるものあればなり、之れを統御するの道、豈に慎まらずして可ならんや。

吾等は常に眞理を愛し、又偏狹なる夫の排外思想を離すと同時に、一國の改善は決して突飛的拙策に依て成効すべきにあらざるを信ず、當時漸く高まり來れる政教問題の如き、又此所信に基て進向せん事を期せざるべからず、我國當路者、將た在野の士にして、宗教が隠然たる國民統一の一大勢力たると同時に、人民向背の依て分るる原動力たるを悟らず、唯政教分離の虚名の下に、恬然として顧慮する所なくんば、今後治すべからざるの迷惑に遭遇せん、其時悔るも既に遲し、嗚呼姑息の手段に依りて、一時を彌縫せんとするは不實なり、美名を追て其實を忘るゝものは虚飾なり、世に之等不實虚飾の徒の少々ならざるを悲しむ。

此一年を如何にせんとするか

英國の名士ジョン、モレー氏は近頃の演説中に刻下、世界に起らんとする困難につきて悲觀的意見を述べ、其困難は今や端緒を開きたるにて結局に近づきたるに非ず、帝國主義の流行は尙武主義の隆盛を來し其結果は國費日に増加し、貴族富豪の權力増大し遂に大鬪争を起すに至るべしと、余輩は米國に於ける或一流政治家の非帝國主義に贊する者に非ず、た余輩の憂ふる所、誠に下の如し、たとへば、彼の柔術取りが少しく上手にあるときは其腕を説みたくかり背負投でもやつて見んとするが如く、軍備の整頓したる時は一寸一戰争試

みんと待ち構ふるが如きとなきか、見よ拾九世紀の末路は極めて悲惨なる歴史を以て蔽はれんとするなり、米、西の戰、尙フリッピン島に餘燼を消せず獨立軍と米軍との間干戈相迎ふるに非ずや、瑞典那威の間大に不和あらんとし、サモア島には王位争奪の騷擾あり、フアシヨダ事件には亞非利加に於ける英、佛、權力の衝突あり、思ふに萬國平和會議に先づて露國をして旅順口より英國を威海衛より、獨乙を膠州灣より引き上げしむるに非れば到底不可あり、而して特に其怪しげなる使命を有する宣教師を故國に引退せしめ、先自國民に説くに人道の大義と平和の急を教へしむべきなり、余輩は客年以來我隣國の狀勢に注目し誠に憂心に堪へざるものあり、昨年十二月十一日には韓國に十字架の旗を押し立て、迫るものあり、又清國に於ては昨年十二月五日四川省に於て土民の佛國宣教師を拘留せし爲外交問題となりてより以來本年に至りても安徽省宿州に土匪蜂起し又河南省歸德府夏邑縣にも匪徒の蜂起するあり、二月九日十日には甘肅省に於ける土匪蜂起の報頻々として來れり、我邦に於て東亞同文會の如きは朝野の名士相會して清國の保全を期するものあれば此の如き問題に對しても早く諸氏の心を憂へしめしむるものと信ずると雖、獨り自家の位置にのみ心を勞する幾多の小政事家始め我國民の多くは町内喧嘩よりも猶輕しと見るの徒のみ、然れども一騒亂一紛擾には必ず禍根の由て存するあり、余輩は此問題の極めて重大なる關係を有するを知る唯余輩は今此に論せざるべし、國民自ら何が故に暴民の佛國宣教師を捕へたるか

を解釋せよ、余輩の説明を待たずして自ら明かなればなり、余輩は政治家に非ずと雖、世界の大勢が國民に及ぼすの影響、又隣國の變動が直接間接に我國民に及ぼすの利害を察して、他日臍を噛むの悔なからんと希ふ、嗚呼余輩は此一年を如何にせんとするか、余輩は實にパウロ一世の猷述に依りて初めて汚されたる十九世紀史の末路を憂るものなり

會報

◎江沼佛敎徒同盟會發會式 石川縣江沼郡の同會にては、有志諸氏の必死の運動と盡力とに依り愈々去月十一日即ち憲法發布一週年の佳辰を以て、同郡大聖寺町公會堂に於て、盛大なる發會式を舉行せられたり、今當日の概況を記せんに、郡内各村同盟會委員、郡町村名譽職員及び各宗僧侶等、無慮五百餘名、續々來會し、席定まるや、幹事桑島榮一氏、登壇、同會設立の主意并に着手以後の經過を述べ、次て弓波明哲、竹中徳麿、兩氏の各熱心ある一場の演説あり後ち規則の修正其他二三の要件を議決し終りて、

天皇陛下萬歲、江沼佛敎徒同盟會萬歲を三唱し、一同歡を盡し散會を告げたるは午後二時過ぎにして近來稀なる盛會なりしと云ふ

◎能美佛徒同盟會發會式 前には江沼郡同盟會の發會式を見るに至る、今又同會の發會式當日の狀況に接したり北陸の地何ぞ夫れ盛なるや、滔々として一瀉千里の概ありと

云ふべし、尙同會にては内務大臣、社寺局長、各宗管長、在野の名士に至る迄、悉く町重なる招待状を發したりと云ふ、如何に其抱負の大なるを知るにあたりありと云ふべし、本誌前號に記せし如く去月十九日午前十時より小松町本蓮寺に於て其の發會式を擧行したり、今其模様を記んに當日は單に擧式に列するもののみならず豫て南條文雄師等出演の開之ありければ會員以外の傍聴者も夥しく午前九時に至り早や會場内は勿論同寺門内は立錫の餘地なきまでに押詰め定刻頃以來會せしものは會場に入るを得ず氣の毒にも門内に立往生したるもの多かりき扱て會場外の裝飾は充分に行届き九龍橋より本蓮寺に至る道筋には所々に大なる國旗を交又し幔幕を打廻す杯頗る周到を極めたり廳て午前十時と覺しき頃一發の煙火を合圖に開會を報じ引續き場の一隅より起れる囂然たる樂聲の裏に會員來賓等着席し嚴に佛前の勤行ありし後同會幹事總代一篇の式辭を讀み次で數通の祝辭朗讀あり尙同會組織以來の諸件の報告ありし後佐々木了應師先演壇に進み政教問題に就き説く所あり政府當局者が佛教徒に處するの頗る冷淡なるを攻撃し政府は僧侶に對し干渉を試み民選議院に列するの權利を剝奪し徴兵を應召すべしと定めたるとの最も當らざるを難し今回集鳴監獄問題が端なく導火線となりて我佛徒の一致結合の固めたるを幸ひ進んで政府に對し要むる所あるべきなりと終結して第四高等學校生徒宇佐美全員氏北陸佛教青年會總代として一場の希望を述べ同盟會員諸氏の決心を促したり夫より加賀中學寮の黒田義忠氏佛教の開始より今日に至る迄の歴史

史一班を叙し佛教の犯すべからざる所以を説き降壇するや幹事本佐次郎氏は本日大谷派法主の來臨を請ひたれども差支の爲め果されざるにつき特に南條文雄師を代理として遣はされたるが法主に於ても本會の成立を深く賛成せられ特に親筆を與へられたる旨を告げ即ち南條師該親筆を佛前に捧げ開披の上法主が書せる「與天下助教化」の六字に付き説明する所あり尙會員一同に對する希望を縷述し滔々數千言を重ねたるが歸する所は只だ會員の本分として眞の一字を以て事に當らんとを望むにあり即ち眞實の心を以て事に従はん時は天下何事か成らざらんと引例考証大に聴者に感動を與へたり夫れより布教使伊藤大忍師登壇の上政治宗教の離るべからざる關係を説き今日の政府は眼中宗教あらざるもの、如くなれば目前に條改正實施の期を控へたる今日漫然政府に依りてのみ事を濟さんとの得策ならざるにつき佛教徒は此際特に一致結合して自ら衛る所あらざるべからず云々次で渥美契縁師は各國に於ける政教の關係より延て我國今日の政教問題に及び條約改正目前に迫り憲法亦た信教の自由を許したれども我佛教が皇室に對し如何なる因縁を有しあるかを思はし釋然他教に依るの不可なるを知るべきなりとて例の眞摯なる舌法を以て説く所ありたれば何れも感に入りたるもの、如かりき夫より九瀬清五郎氏幹事總代として謝辭を述べ 陛下萬歲 同盟萬歲 を三唱し奏樂の音に連れ午後四時一先づ退席し來賓一同へは別室に於て酒肴の饗應をなしたり當日は終日好晴なりし爲め一層の出入にて近來見ざる所の盛會なりしと

◎同會發會式の餘聞

尙當日の餘聞の二三を記さんにして式場は本蓮寺堂宇のみにては狹隘なるを慮り、東町歡歸寺を以て其分場となし、準備する所ありしが、果して前夜より本蓮寺は會員外の聽衆續々集り來り殆ど立錫の地なきに至る、分場も未明より已に人を以て充され、定時に後れ來りしものは兩場共に入る能はず、或は鐘樓堂に登り、或は門牆に或は樹木に攀ち登り甚しきは椽の下に入り演説を聴く者もあり、實にすさまじき勢なりきと、分場に於ては南條、渥美伊藤の諸師を始め、凡て本場と同じく出演せられたり、殊に分場は昨秋の建築にかゝり大堂宇の事とて、本場よりも參會者ありたりと云ふ

◎右發會式に付ては、各宗本山若しくは全國各地佛教團體及新聞雜誌社等より、祝詞祝電を寄せ來る者、積んで數十通の多さに達せりと

◎大谷派管長親下よりは、特に家從竹内氏を派遣し、染筆の幅を齎らさしめたりと云ふ

◎高山縣

其の後氣焔益熾にして、彌波支部の如き數名の委員を上京せしめ、大に盡を處わらんとし、又去月中旬臨時縣會開會の際も、大谷賢了氏出富謀る處あり島田上野等諸氏を初め各新聞社等有力者の集會を催し、發會式等の事を協議し且つ將來の運動方法に付て熟議を凝らしせりと、而して遠藤大谷、其日、玄巢、竹林、鈴木、倉橋、磯部、等高山以西の有志は各其の方面に於て、盡力せられつつあるも高山以東の地は未だ活潑の運動を觀る能はざりしに、過般北陸青年會

◎武生佛教徒同盟會

越前武生町にては去月十四日引接寺に於て、各宗委員會を開き、席上伊香問氏大に佛教徒の精神的合同を説きしに、滿場一人の反對もなく立所に賛成を即ち去月十五六の兩日は、魚津町照善寺に於て第一回を開きしに、兩日共聴者無慮四千餘名に及び、非常に人心を喚起せしと、十六日には同地の有志者數十名發起となり、全町旗智樓に間野氏を招し、慰勞會を兼ね、今後の運動に付き熟議する所ありしと、翌十七八の兩日は、生地專念寺に於て演説會開會、間野氏并に全地の宮野致玄、梅澤忠親、の諸氏熱血を吐露し、爲めに三千有餘名の聴者、何れも非常に感動せりと、其後直ちに會員募集に着手せしに、續々入會者ありと同地に於ての運動者の重なる人々は梅澤、永井、島山、國野、の諸氏なりと、尙間野氏は引續き全縣各所を巡回せらるゝと云ふ

◎武生佛教徒同盟會 越前武生町にては去月十四日引接寺に於て、各宗委員會を開き、席上伊香問氏大に佛教徒の精神的合同を説きしに、滿場一人の反對もなく立所に賛成を

得、夫より団体組織等の協議に及び、先づ題號の如き會名となし、本月一日再び引接寺に於て各宗談話會を催さんとして、目下非常に奔走中の由なるが、準備委員として、鶴峯法泉、水川某、伊香間誓運の三氏當選せられ、氣焔頗る盛なりと云ふ。

關 西

◎高島是眞會 近江國高島郡西庄村長光寺に設置せる全會は、實に昨年十二月一日を以て盛大なる發會式を舉行し、其後會員は集鴨監獄事件並に政教問題に付、非常なる熱心を以て此事に盡瘁せられつゝ、ありしか、今回左の如き決議をなせりと云ふ。

- (一) 二階相依の宗義に終始し、朝家の御爲め献身的の奉公をなす事、
- (二) 全國佛教信徒に氣脈を通じ、一致の運動をなす事、
- (三) 東上委員を定め、内務大臣及宗教關係の當路者へ、宗教に於ける將來の方針を問ふ事、
- (四) 將來は縣會議員、國會代議士の選挙は、日本固有の神佛兩道信仰の人に非ざるを要する事、

◎東淺井郡の有志

同郡は最も氣焔盛にして今回も虎姫村大字田村に於ては、去月十八日稻葉了澄師を召請し大演說會を開き、頗る盛會なりしと殊に同字にては確乎たる規約を結び、全字舉て調印の上、本會へ入會の意氣込なりと云ふ諸氏の骨を碎きて盡瘁せらるゝは、本會の感謝に堪えざる所なり。

◎伊庭佛教青年會 近州神崎郡伊庭村にあり、廿四年の創立にかゝり、基礎最も堅く、會員諸氏は、政教問題等に付

大に力を致さるゝよし、

◎伊勢大派同志會 同會は桑名町大谷派別院内に設け、本月を期し政教問題に關し、大に人心を鼓舞し輿論を喚起せんとて演說會を開かむ爲め、目下準備最中なりと、而して本會の爲め、會員募集に盡力しつゝありといふ。

參 州

◎三河國佛教諸團體の現況 同國佛教徒の氣焔漸く旺なる事は前々號の本誌に略報したるが其後の景況同地より通信によれば左の如し

◎三河護法會

前々號所報の三河佛教同志會は三河有志の會合に過ぎざりしが本月十二日全國各組の組長視察費衆其他重なる有志者は三河別院に會議し其結果愈三河全國大谷派僧侶の大團結を組織する事に一決し之を三河護法會と名け當日出席者は其より部署を定めて全國を勸誘し更に去月一日を期して大會を開き直ちに實際運動に着手する筈なりといふ當日決議したる同會の主義綱領は左の如し

主 義

- 一、僧侶を獎勵し自信教人信の實を擧げ其學徳を修め品位を高らしむる事且從來の惡弊を改後せしむる事
- 二、佛教徒國民同盟會の主旨に賛同し三河同盟會支部設立を企圖する事
- 三、政府をして公認の制度を立てしむる事凡て時事問題を討究する事
- 四、慈善社會事業を起し及び是等の團體を獎勵する事
- 五、佛教の繁榮を妨げんとする不正の行爲を爲すものある時は自衛上之を排除する事

◎岡崎各宗合同會

にては去月十日誓願寺に於て大演

說會を開きたるに各宗僧侶來會者は淨土宗西山派管長白井誓空師等廿四名一觀聽衆は無慮九百餘名さしもに廣き本堂此多人數を容れ得ずして堂外に佇立せるもの數多を見受けたり第一廣新田泰雄氏は滔々一時間半佛教の現況を慨し大合同の必要を説き次に佛教青年會員石川成章氏は二時間半に亘る二席の演說をなし監獄問題の當初より全國佛教徒同盟會設立の今日に至るまで東京及び各地の情況を報道し目下内外の形勢を痛説し國家の爲め宗教の爲め一致團結の急を切論せしに聽衆皆感奮し引續き同夜同寺に夜會を開きたるに聽衆復た満堂し倉橋義雄相馬政徳石川成章の三氏各熱心なる演說をなしたるに散會後尙止まりて本會の爲めにあくまで奔走盡力せん事を誓はれ直ちに創始委員となりて四方に勸誘せん事を決議せられし人七十二名の多さに上れり、尙岡崎町大字能見有志者は十二日夜特に石川成章氏を聘し、忠魂紀念堂に於て演說會を開きたるに、相馬政徳氏の斡旋により直に本會に加盟せられし人七十八名ありたり、以て同地佛教徒熱心の一斑を推知すべし。

◎佛教進智會

岡崎町佛教熱心家五百餘名より成れる同會は去十一月石川成章氏を聘して懇話會を開き同盟會の趣意に就て詳細の説明を聞き直ちに同盟會に賛同せられ終始提攜運動せんことを滿場一致を以て議決せり

◎三參佛教會

同會にては前號所報の如く已に數所に演說會を開き同盟會に加盟を申込もの續々たるに至れるを以て愈々同盟會員勸募に着手し目下委員諸氏は四方に奔走調印

に忙はしき由

この他相愛會拾德會道徳會等も皆同盟會に賛同し、夫々會員の勸募に着手中あれば、三河全國を通じ少くも一万已上の同盟會員を得る旬日の中にあらんとす

九州と中國

◎福岡縣の有志 本誌初刊以來屢々記せし如く同地の有志諸君が時事問題に付き、非常の熱心を以て運動をなし居りしが、就中青年者新開晴英、星野壽命兩氏の如き、各所に幻燈會を開き、宗教、教育并に内地雜居準備に對し、諄々として説き去り、大に地方人士を醒覺しつゝありと云ふ、尙兩氏發起者となり、佛教青年樹心會なるものを設立せんとして既に趣意書を發布し、郡内有力者に賛同を求め、大に會員募集に盡力中なりしと云ふ。

◎青年會員の歸國

慶應義塾大學部の出身にして、佛教青年會員伊澤道暉氏(長崎縣人)には、去月初旬歸國の途に就かれ大に各地に遊説を試むる筈、九州の教界之より一段の活氣を添え來らむ。

◎廣島の有志

今回佛教青年會員藤岡勝二氏には、文部省より中國筋の尋中、師範學校等の國語視察を命ぜられ、廣島に滞在中市の有力者と相會し、同盟會の趣旨を懇々懇篤に述べたるに忽ち賛成を表し、即時入會を申込れり、以後同市に於ても此等の有力者中心となり、大に運動せらるると云ふ。

東 北

◎佛敎振起會 同會は陸奥上北郡の有志者の組織にかゝる團體にして、同地の澤口、川村等の諸氏主として幹施の勞を取り、目下積雪中にも拘らず、郡内有志家を遊説中なりと云ふ遠からず本會と聯絡を見らるに至るべし。

◎北秋佛敎會 羽後北秋郡大館町の同會より決議を以て、態々本會に賛襄の意を表せらる、謹て厚意を謝す、開く、同會の青年は最も佛敎に篤くして、昨年の如き、態々大内青巒居士を聘し佛敎演説を開きたりと云ふ、諸氏か切に本會の爲め盡瘁せられむことを望む。

◎北海道の有志 渡島國爾志郡の有志は、同盟會組織に付、目下非常の運動中あるか、何分積雪の爲め交通不便にして運動も捗らざる由なるが、遠からず一團體の生ずるに至るべし、安本圓海、波佐谷澄清、館壽一の諸氏主として幹施せらるゝと云ふ。

◎常州地方の運動 前々號報道せし如く常州地方にては内地雜居の期も目睫の間に逼り、内外の問題急なる今日佛敎家の晏然徒消すべき時に非ざるを感じ、稻田村西念寺住職稻田良晃、河和田村報佛寺住職河和田法弘、西那珂村溪雲寺住職橋本明善、宍戸町唯信寺宍戸僧蓋、同町光明寺住職西澤等の諸氏主として幹施の勞を執り、東西茨城郡並に水戸市の眞宗東西兩派十五ヶ寺共同して今回愛國護法同盟會を組織し同縣知事を初め書記官、警部長、典獄、郡長、其他の高等官

關 東

を贊助員とし目下會員募集に盡力中あるが、先般佛敎國民同盟會へ向け出張演説を依頼し來りしを以て同會よりは文學士本多辰次郎明敎主筆安藤鐵腸の兩氏出張し、去月廿二日は西念寺に於て、廿二日は唯信寺、同夜は光明寺に於て演説會を開會し、何れも非常の盛會にして續々會員に加盟するものありしといふ、由來同地方は佛敎不振の地にして宗教の感化及ばざりしが、地方有志諸氏の熱誠と兩氏の演説に依て、頗る人心を喚起し佛敎徒團結の必要を感せしめしといふが、同會は本會と飽迄提携して共同一致の運動を爲すといふ、尙水戸上下兩市、並に河和田、笠間の各地に於て開會せしことあるが本號編輯のべ切迄には未だうの報を得ず、追て次號に掲ぐることをせん

社 會

◎寄附金 廣島縣大石菊治郎氏より金壹圓、横濱講話會より金六圓、横濱太子協會員肥田さよ氏より金五十錢何れも本會に寄附せられたり茲に謹て厚意を謝す

◎大日本佛敎青年會臨時會 二月十二日大日本佛敎青年會事務所に於て、臨時會を召集し、政敎問題につき、青年間の議論を一定せんが爲め討議を開きたり、當日は文學博士井上圓丁氏出席して、氏が先年洋行の際取調べられたる結果を述べられ、又嘗て政敎問題を専攻せられたる眞鍋十藏氏は、公法上より取調べたる意見を開陳せり、其他當日來會せ

るもの約四十人皆大學院學士、大學々生、専門學校得業生及學生、諸雜誌記者、第一高等學校及自餘諸學校學生等にして、各其意見を開陳し、委員十名を選びて、調査の方針を一任し、越へて十五日夜委員會を開き、公認敎の標準四項を議定し散會せり。

◎第八回夏期講習會 越前國敦賀港に開くに就きて同地より委員白崎謙藏氏は上京せられ、講習會委員相會し萬事につき打合せ、且つ寄附金及び其他諸設の準備につき協議したり、茲に青年會は謹んで同地有志諸氏の熱誠なる盡力と、厚志を感謝す。

◎第八回釋尊降誕會 大日本佛敎青年會昨年秋季大會に於て、本年釋尊降誕會は専門學校と定せられたりしが、今度哲學館内宗教學會に於て受持つこととなり、今年は殊に盛大に舉行する筈にて、委員諸氏は大に奮勵盡力せらるゝといふ。

◎敎導講習院の組織 今回時勢の趨勢に促されて、淺草大谷派別院内に移轉せられたり、來着するや職員學生一同直ちに佛前に詣し、一身を宗教に捧げて社會的傳道に盡さむことを誓ひ、直ちに寄宿舎を開きて、左の綱領を定め、自治を以て宗教的家庭を形造らむことを盟へり、

一、信仰を確立し道念を養成する事、
一、實踐躬行品性を陶冶し、宗教者の模範を以て任する事、
一、親和善勸宗教的同胞たるの實を擧ぐる事、
來着後、直ちに「傳道者の覺悟」「基督敎會の觀察」なる二題を授けられ、學生一同日夜府下の基督敎各派の會堂に入りて、

審かに之を観察し、十日間各己其所感を陳し、修身の覺悟を開陳し、何れも氣風頓に昂り、殊に信念の養成、社會的眼光を啓發するに勉めつゝあり、而して留學生葦原林元氏、銳意事務の衝に當られ、留學生永井壽江、同興地觀圓の兩氏は、奮て寄宿舎に入り、實踐躬行を以て、學生督勵の任に當られ清らかにして健全なる一家庭は、信仰を中心として形作られたり、

二月十一日紀元節の佳日を下して、別院内大書院に於て開院の式を舉行せり、新法主義下は、淨曉院殿已下同派役員を從へて臨場せられ、來賓は何れも同院に同情を有せらるる紳士及び學生諸氏にして、同院敎授講師職員一同列席し、席定まると、院長太田祐慶師は、先づ起て開院の辭を陳べ、新法主義下は、親ら割切なる告辭を朗讀せられ、遺教經を引照して忍耐を重んずべき旨を諭され、敎授村上專精師は、熱心な術と法と并へ養ふべきことを述べられ、普通學務局長澤柳政太郎氏は、維新已後百般の事物、悉く一新せしに、獨り傳道者か舊套を墨守して、更に改善の策を講せず、社會も亦徒らに傍觀して顧みざるは最も憾となす所、今や新敎育を受けたるの人此衝に當らる、若し斬新なる術を以て、傳道方法を講せば、敎界亦面目を一新せんと陳べられ、醫學博士片山國嘉氏は、術の參考として精神病學の研究は、傳道者が機類を察するに資するあるべき旨を懇切に陳べられ、陸軍歩兵少佐中島行正氏は軍隊敎育の精神につきて詳辨せられたり、終りに學員總代として近角常觀氏は答辭を陳じ、學生一同に向て、

此神嚴なる式場に於て、各自心中に於て深く誓ふ所あるべからずと陳べ、茲に式終り、茶菓の饗應ありて、退散せり、續て十三日月曜より始業せり、今受持教授講師及び課目を列記せんか、大學教授村上專精師は佛敎通論を、學師齋藤唯信師は、宗餘乘を、布教使平松理英師は軍隊傳道を、布教使伊藤大忍師は監獄傳道を擔任せられ、文學博士南條文雄師は傳法者傳を、文學博士井上圓了氏は、教會制度を文學士近角常觀氏は宗教哲學を、文學士本多辰次郎氏は歴史及び國語を、文學士常盤大定氏は論理學を、文學士吉田靜政氏は心理學及び社會學を、内田周平氏は漢文を、眞鍋十藏氏は監獄學及び政敎論を、其他時々大學教授文學博士元良勇次氏は社會心理學を、大學教授醫學博士片山國嘉氏は精神病學を、大内青巒居士は演說實驗を教授せらる、而して近角常觀氏は同院の管理につきて大に盡碎せらるといふ。大日本佛敎青年會報編輯人

◎仁慈女學院の開設 本誌前號に於て記載せし大日本佛敎仁慈博愛社の第一着手として、女學院を淺草區松葉町真龍寺に開設し、去月十八日假開院式を行ひたりといふ、當時女學生の數は三十餘名にして續々入學の申込者あれども、教場狹隘の爲め謝絶し居る次第にして、富森女教師は懇篤に教授せらるゝを以て生徒の父兄は非常に喜び居ると云ふ、猶同社に於て是等の生徒に書籍、筆墨紙等悉皆惠與し飽迄佛敎主義に仍りて養成する見込の由、長澤氏は、日夜寢食を忘れ此事に盡瘁しつゝあり目下の處、有力なる協賛員も多く出來し、追々全國に會員を募らるゝよし、余輩は切に慈善家諸氏の翼贊

せられひとを望むて止まざるなり

◎宗教に關する質問 去月十四日代議士早川龍介氏外三十余名より提出されたり而して氏は、議場に於て宗教に關する一場の演說を試みられたり、知らず政府は明確なる答辨を與ふるや否や、其質問書の要旨左の如しと云ふ

我國は從來の宗教が千有余年の舊慣と國情に適合したるに依り自然的國教の如くなり來りたるは事實に於て明なり而して今猶舊慣を遂行しつゝあるも已に憲法第廿八條に臣民の義務に背かす安寧の秩序を妨げざる限に於て信敎の自由を許され又各國の條約に於て規定する處あり文化進運の今日に於て當然のことなりと雖も内地雜居に際し宗教の全体に對し之が規定を定め彼我の安寧を保全せざるべからず萬一期に後れ時を誤れば國を益するの利器却て國を害するの結果を生ぜざるを保せず政府は宗教上に於ける所謂臣民の義務に背かす安寧秩序を妨ざる限に於ける規定は如何なる方法に依る歟

右及質問候也

◎アイヌ語學者としての一宣教師 余輩は我邦に在留する外國宣教師の多くが無學無識なるに拘はらず時として我國俗習慣を惡口して外國人の間に傳へ、又は其自國より寄附する傳道費に鼻を高くし、是の會堂も己が物なり、今日の文明は我等の御蔭なりといはぬばかりの徒多く、現に新島氏の死後同志社内に於ける西洋人が漸々増長し來りて威張りたがらんとし、遂には昨年(一九〇〇年)の如きことゝを生ずるに至

りたるは甚だ悲む所なりとす、然れども外國宣教師中豈に一人の猷身的好漢なからんや、ジョン、バナチラー氏の如きは實に余輩の感嘆して措く能はざるの一人なり、氏の北海道に於ては十數年、親しくアイヌの群に入り、福音を此土人に傳へんとするの餘り、千八百九十一年聖書をアイヌ語に翻譯し、又アイヌ語の字書を造りて銳意熱心怠る所なし、我邦に於ても、アイヌ語の學者として神保小虎、金澤庄三郎二氏あり、然れども斯學研究の魁を執したるものは、實に此僻陬の間に隠れたる一宣教師バナチラー氏なりとす、數方の佛敎徒中若し一人のバナチラー氏の如きあくんば是れ豈に慚愧の至りに非ずや、余輩は今の青年佛敎徒中尙且時俗に雷同して箇の底の大熱心なく、嫉妬讒謗の間、有漏の大穢身を現じて得々たる徒なからんとを希ひ、他山の石、記して以て發奮自勵の刺激劑となす

根岸の里に瓜生會あるものを設け居りしも、是た其の工夫せし廢物利用の方法を多くの人に教へんと目的に出でたりしのみならず、されば一昨年同女の身まかりてより、其あつた志のほども漸々世の人に忘れらるゝに至り、去るものは日々々々としの習はせにて、さしも世に盡くせる矯風と慈善の二大美事は水の泡とせぬやせんも斗られずとて、同女を起して、あまねく同志の夫人令嬢たちと語り、同女の志を上げて此二大美事を主義として、ひろく會員をつのり、ながく社會の爲、皇國の爲に、盡くさんとの計畫なりといふ、なほ岩女は若きより宗教心にあつく、佛敎の主義によりて安心の域に達し、修練漸くつみて、老後に至りては完全玉の如く、無我の間、自から犯すべからざる氣象あり、身体も壯健にして、辨舌は流水の如く、如何なる猛夫暴人も同女の顔を見れば忽ち首を俯してその怒を収め、却りて自れの罪を悔いしはとなりしといふ、これ皆同女が自身もなく他人もなく、誰を見ても自己の家族の如くなりし所に、化せられたるなり、岩女の一生は佛敎の爲に動き、皇國の爲に働き、尊王と奉佛との二點より、彼れの如き慈善事業に身をなまきものとせるなり、同女の如き眞の愛國信佛者も誠に希有のことなりといふべし

◎瓜生慈善會 今昔欄内に掲載しつゝある瓜生岩女の未だ世にありしころ、福島にて瓜生會あるものを設けて、専ら慈善の道に力を盡し、東京に移りて後も、三百六十日、一生涯の間、一日の如く、慈善と矯風の事につきて老の身の勞苦も勞苦とせざりしが、その慈善も矯風の道も、決して他の合力を願はず、たゞ身の及ぶ限り、力の許す限り、他の爲しがたきことを忍び、他のやねがたきことに堪へて、能く社會の爲に、一身を犠牲にせることは、その老媪の身を以て、藍綬章の恩賜に浴せるにても明なり、されども素より己の一身を犠牲とせるのみなれば、別に會なぞやうのものを組織せず、

◎正誤 本月一日貴會發兌敎時報第三號第十二頁に於て俯偪と社會的事業と題したる記事に中國の出雲なる(仁多郡)仁多郡の誤又(横田村)聖覺寺内に云云本院は概則第貳章に記定の如く島根縣出雲國松江市に設く該聖覺寺内は本院開設事務所に有之云(淨財團育兒院)は済濟團育兒院の誤右之通り此の全文を掲げ正

誤相成度此段御依頼に及び候也島根縣出雲郡仁多郡横田村曹聖寺内務濟園育兒院創設事務所東京本郷區森川町一番地佛敎徒國民同盟會出版部御中
明治三十二年二月 日

基督敎傳道の敎域

基督敎眞に恐るべしと云ふ、未だ其恐るゝ所以を知らざるもの多し、基督敎詢に侮るべからずと云ふ、未だ其侮るべからざる所以を知るもの尠からず、然り基督侮るべからず恐るべきことを想はば、現今の彼等の状態に付き、若くは過去に溯りて仔細に其結果を玩味し來らば、其根柢の深き牢として抜くべからざるものあらむ。

現今の基督稍々衰微の時代と稱するも、其衰へたるは頗て彼等が頭を擡げ足を伸ばし大飛躍を試みるの時至らむ、内地雜居は彼等に取りて、一陽回復、滿山笑を含む陽春の天にあらすどせむや、余輩近來彼等が傳道事業の現況に付き、種々な方面に向ひ調査するところあり、讀者試に左表を見よ、其恐るべき所以、蓋し人意の表は出るものあらむ、先づ試に彼等の敎派(新敎)に就て、詳細に列舉せむか誰か其數の多きに驚かさむや

耶蘇敎々派調査(新敎)

東京基督青年會	ヘフデバー、フエース、ミ
アメリカン、バプチスト、	ツシヨン
ミシッヨナリ、ユニオン	基督敎會

米國バイブル、ソサイエ	米國基督敎會
英國敎會ノ一チヨルチミツ	アメリカン、ホールドミツ
米國バプチストサウザン	グリシ、エンド、フガレン、パイ
米國ペンシヨン	ソサイエチー、エフ、スコットランド
英國敎會ノ二ソサイエチー、フガール、	米國監督敎會
プロバグーシヨン、ナフ、ゼコスベル	ユニテリアン
同三女子敎育獎勵敎會	婦人連合敎會
同四聖アンデレー、ユニバ	救世軍
同五東京聖ピーター敎會	米國エバンゼリカル、ルー
北米エバンゼリカル、アツ	テラン、ミツシヨン
ソシエーシヨン	インデペンデント獨立敎會
エバンゼリカル、プロテスタント、ミ	加奈多美以敎會
ツシヨナリ、ソサイエチー	メソヂスト、プロテスタン
インター、ナシヨナルクリ	ト、ミツシヨン
スチアン、アラリアン	米國プレスビテリアン敎會
米國メソヂスト、エビスコ	南プレスビテリアン敎會
バル敎會	合衆國レフオームト敎會
南メソヂスト、エビスコバ	南プレスビテリアン敎會
ル敎會	スカンデナビアン、チャバ
カンバーランド、プレスビ	ン、アラリアン
テリアン敎會	レリジヤストラクト、ソサ
横濱海員敎會	イエチー
ソサイエチー、オフ、フレン	
ド	
ユニバーサリスト	
スコットランド、ユナイテッ	
ト、プレスビテリアン敎會	

以上の敎派に屬する單に外國人の宣敎師のみにても實に四百

五十名に上るべしと云ふ、これに邦人の宣敎師を加へなば決して尠に非ざるを知るべし、一敎派にして最も宣敎師の多きは、英國敎會の一チヨルチミシヨナリにして、六十人の宣敎師を有し、次はアメリカン、ホールド敎會にして五十人を有せり、豈に驚くべきの勢力に非ずや、而して是等の外國人が何れの地方に最も多く駐在して、宣敎に従事しつゝあるかを見むとす。

外人宣敎師(新敎)各派(前記の)地方駐在表

北 東京大神兵長新崎群千茨枈奈三愛靜山滋岐長	二七三一
海 京都坂川庫崎湯玉馬藁城木良重知岡梨賀早野	五〇四三二一
宮 福岩青山秋福石富島島岡廣山和德香愛高福大	一五〇三二〇一
城 島手森形田井川山取根山島口山島川媛知岡分	二二二一三
九 〇〇五〇二一〇一三二五三四二七三三六九四	一〇五〇二一〇
佐 熊宮鹿沖	二二五三
賀 本崎島繩	四二七三三六九四
二六一二〇	

右表に依れば、埼玉、茨城、滋賀、岩手、山形、沖繩の數縣のみ彼等の駐在せざるを見るのみ、元より埼玉の如き東京に接近するを以て敢て異なるに足らざるも彼等の滋賀縣に足跡を留めざるは、或は佛敎隆盛の然らしむる所か、或は其地京に密接し流車、疎水の便あるを以て、埼玉と同じく駐在の必要なきに仍るか、他は沖繩を除く外悉く東北の地とす、

一は地方人士の宗教に冷淡なるを、一は土地の邊陲と、氣候の寒冷とは重なる原因ならむ、嗚呼、東北の敎田、草靡々として顧るものおし、何ぞ荒蕪の甚しき、只吾輩は偏に外人の先鞭を恐るゝのみ、要するに畿内八道、到る處として外人の痕跡を印せざるはなく、我敎界の天地は彼れ外人の爲め、南より北、東より西、四惟上下に至るまで悉く蹂躪せられざるはなし、蓋し是等の一大根源を有し一大勢力を張る所以のもの、皆外國の傳道會社より資本を仰がざるはなく、宣敎師の俸給の如きは大概各府縣知事の俸に匹敵すと云ふ、豈塞心すべきとにあらざるや余輩は愛國志士の奮勵一番を望むで止まざるものなり。

信 界

靜 觀 錄

(三)外、柔にして内、剛なるべし。 近角常觀

抑々人間は偽善者である、されど人ありて、面り、汝は偽善者なりと宣告するときは、誰しも憤然として怒らぬものはない、是か即ち偽善者の證據である、之に反して、なにか面り褒むるときは、多少御上手とばかりつゝも、氣持が悪くない、これいよいよ偽善者の證據である、何んとなれば、自分が果して偽善者なれば、偽善者と呼ばれても當然の事である、萬一眞實偽善者でなくば、たとひ人が偽善者と呼ぶども、平氣な筈である、つまり人には悪しく言はれたくないのである、

いどもかしき九重の奥とかや、やんごとなき女御あまた、緋の装をかへて、このもかの中に、さいめきつゝ、なれぬわざにいそ／＼しきうの中に、一人の老いたる刀自あり。天さがる鄙の賤女の、身には飾りなき装して、髪はたゞ鬚もて束ねつゝ、媛ぎみたちの中にまじらへるさまは、げに女郎花の中に唯一本の薄かども見られけり。此一本の薄、身なりこそたゞ賤女のさまはしたれど、犯せばからざる容貌の間、自ら兩頬に溢るゝばかりの慈愛の波を湛へ、たれもかれも、眞實の母かどもしたしみつべき所あり。これかん岩子刀自なりける。この賤女のいかにして、かくは九重の大奥にしも、女御媛ぎみたちにたづさはり、かつはさいめきながら、なにのわざにかいろ／＼しき。

刀自は若きころより、慈善のこゝろあつく、自らは日夜業をばげみて勉強することも世の常ならず。得るものあれば貧しきに與へて、已れはたゞ餓を忍び寒さを凌ぐのみ。かゝる性質なれば如何なるものにて、たゞ棄つることをせず、必ず何にかこれを用ゐることを工夫し、廢物利用に工みなること、げに如何なる智者にもこゝたり。吝嗇のものにて何の用にもたゞしとおもひて、すて去るものも、刀自は必ず如何様にかこれを工夫して、益にたてること、驚くばかりなり。自ら謂ふやうは終身めぐみにつくすも、限りあるの年、とても限りなき貧しき人を救ふこともならじ。ひろく皇國のため國民のために、慈善の績をあぐるは廢物を利用して、ひろくその法を人に教ふるに過るものなしと。されば平生その心を

用ゐるの密なること、感せざるを得ざるほどなり。消し炭、紙織物、大根葉、雪華菜、緋または監魚の頭、襦袢、包みもの、竹の皮、その外人の棄てしものを利用して敷しれざれども、今はこれを省く。その中にてことに功益の大あるものは、餚の搾り糟をもて、一種の食品を製することあり。福島縣にありし折は瓜生會なるものを組織して、其法を傳授し、その後東京市養育院より招かれて幼童世話係となりし際、餚糟製の菓子も、皇后陛下に奉りて、畏き御旨を賜はり。次に宮中に召されて御物を賜はりしこともありき。刀自が九重の大奥にて、女御の媛たちにたづさはり、さいめきながらいそ／＼しく、時あらぬ賑ひごとをなせるは、この餚糟にて菓子製せる折のことなりしと。刀自が前に福島縣にてこの法を傳授し、ためにその利益をうくるもの敷しれざれば、これを全國にひろめて、何卒多くの人の爲にせんとて、その後根岸の里に瓜生會なるものを設け、自ら入費を辨じ、且つ又傳授をうくる人の賄費さへ已れこれを負担し、一すじにこの法を傳へんことを計り、かねては貧民孤兒等をめぐむとも敷しれざりけり。

清征の軍の起りし後、天下皆恤兵に急はしく、刀自も亦人にもまして奉公のつとめをつくせしも、刀自の眼にうつりて、常にあはれに堪へぬは、貧民の寒さにあき、飢に叫びさまなり。軍事の折、世人は貧民を顧みるの暇なかりければ、細民は日に月に多くなり行くのみ、刀自は彼此盡力せしむ耳を傾くるものとても少なかりければ、工夫に餘念なかりけるが。

或日の事、焼芋屋の前を過ぎける時、切屑推く籠に滿ちたるを見しが、思ふやう、一つの店にても切屑の多きかくの如く、而して人みなすて、顧みず。もし府下の切屑を集めなば、日々に捨つるもの、丘のごとくあるべしとて、兎も角一籠を求めて家に携へ歸り、いろ／＼工夫して遂にこれより美麗しき餚を製し。まか其精もて糲どなすの方法を考へ出し。大に喜び、日に／＼府下の芋屋と特約して切屑を買ひ集め。これよりこの有益の食品をつくりて、細民に施し。またこれを普ねく諸人に傳授せしが。赤十字社病院にてこの諸餚を分拆せしに、氣味佳良にして最も滋養にかなふとの證明ありしかば、刀自はこの餚を陸軍衛戍病院、赤十字社等に贈りて病兵の滋養品にそなへけり。今に至りて此諸餚製造の法によりてその生業とするもの三十餘戸の多きに及ぶといふ。これによりて食を得る窮民の數の多きも推し測られつべきあり。この大なる効益もこれたゞ刀自が細き事にも心を用ひしが爲にて。刀自が慈善のさまは若き時より常に斯のごとく。その一生涯に救ひたすけたる人の數は莫大なりといへども、嘗て他の寄附をうけたるとなく、一文なりとも他に合力を乞はず。自ら工夫し、自らはたらきて、己れの身を貧民に施し、己れの心を孤兒に與へて、以てその一生涯を終りしなり。されば刀自の慈善はなべてのさまどかはりて、特に一種の光彩あり、これやげに大悲母となづくべきものなりけり。

征清の折、畏くも、皇后陛下を始め奉り、女御たち、貴婦人がた、九重の大奥にて、負傷軍人のためにとて、繻帶をつく

らせ給ひ、その裁ち屑つみて山となせしが。土方伯爵夫人より刀自へ御下附のとをねがひ出でられ、特に、御允可をたまはり。宮内省の御馬車七輛をもて根岸の宅に送られしといふ。刀自は意外なる恩典を蒙りて感涙せまき袖につまみれず。

陛下の玉手をふれさせたまひ、且つ千歳一遇の大事の折の遺物なれば、心をこめて日夜工夫の末、これにて小旗を織り出し、これに、御詠の歌を染め出して紀念織と名け、戦歿軍人の寡婦にして、婦道を守れるもの、または操正しき婦徳ある人に贈り。一は哀悼のこゝろをなぐさめ、一は後世の婦女の鑑とせんとて、土方伯、大山侯、三島子、西郷侯、樺山伯等の諸夫人どもに、各府縣の知事の手を歴て、全國に送れるもの三千餘なりしとぞ。明治二十九年の水無月のころ藍綬章を賜はりしは、いども畏きことにして、げに後世の鑑なり。慈善のためにはまれを得たるものは、男子にては小野太三郎氏、女子の身にては前に阿曾刀自あり、今は瓜生刀自ありのみ。皇國廣しといへども年老いたる賤の女にしてこの光彩をになへるは、まことに有難の男子の遠く及ばざる所なり。この明治の大悲母は一昨年ゆくりなき疾病の褥につきてより、終始貧民救済のことを口にしながら、遂にあの世の人となりしはげに／＼口をしきとなりけり



廣告

佛敎徒國民同盟會全國大會と
來る四月八日釋尊降誕會の節
東京に於て開く各國奮て委員
と上京せしめられん事を切望
す詳細は次號に報せむ

佛敎徒國民同盟會編纂
代價郵稅共金二十錢
部十以上一割引 或は政教
部十以下一割引 或は政教

耶蘇敎非公認論
本書は耶蘇敎の公法上吾國に於て認可すべからざる所以を痛
論したるものにして、其實例として、耶蘇敎が西歐各國に於
て常に政治上に混入し來りて大に國家の發達に障害を與へた
る事蹟を示して毫も餘蘊なし、是れ實に某專門家の手に成る
もの歴史學的著述として大に價值あるものなり、其斷案
に至りては他の漫然として感情的論議をなすもの異り、一
に公法上の根據による、若し一たひ之を繕かは、耶蘇敎會の
專横、竦然として膚に粟せしむるものあらむ、今や内地雜居
の期眼前に迫る我國民亦未雨に綢繆せむは他日臍を嘔むの
悔あらむ、乃ち本書を出版し、江瀧同愛諸士の一讀を請ふ所
以なり。

東京市本郷森川町橋通三百十一號
佛敎徒國民同盟會出版部

佛敎徒國民同盟會入會手續

四方同感の諸彦は左の書式に従ひ個人若くは連名を以て至急
御申込被成下度候(用紙美濃野十二行、地方部設立の分は地方
部へ一通を止め、本部へ一通御送致被下度候)

入會申込書
佛敎徒國民同盟會の趣旨に賛同し加盟仕候也
原籍族籍姓名印

明治三十二年二月廿八日印刷 發行兼編輯人 兼名慶一郎
明治三十二年三月一日發行 印刷 木村小一郎
(明治三十一年十二月二十六日逓信省認可)

會務繁忙の爲め自然欠信勝に相成候やも不知候茲に
豫め謝し番候
東京本郷森川町一番地
佛敎徒國民同盟會本部内
乘松教存

本號より紙面増加致候に付今後廣告の依頼
に應じ可申候

政教時報第四號目錄

- 社説 宗教家の政論 ● 論說 公認敎に關する意見、内地
雜居前に於る政事家
- 會報 東北、北陸、九州、關西、關東、韓國等の各地
運動の状況
- 社會 内地雜居準備一束、出獄人保護事業、眞宗僧侶
と現世、愛知育兒院、石川縣の慈善事業、大日
本佛敎仁慈博愛社、基督教者の運動、小學教育
基金、宗教騒動、韓國に於る佛敎徒、「社會」と
「松の翠」、
- 雜錄 佛敎慈善事業の淵源、
活る懺悔、
- 信界 明治の大慈母瓜生岩子刀自
- 今昔 廣告 數件

本誌廣告

- 一、本誌は毎月二回(一日、十五日)發行とす
- 二、本誌は一切前金にあらざれば御注文に應じず
- 三、本誌代金は必ず小爲替にて逓送の事但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増
の事
- 四、本誌の定價左の如し

一部	一ヶ月	六ヶ月	一年	全
金貳錢五厘	金五錢	金參拾錢	金六拾錢	無越送料
● 廣告料五號活字一行(二十七字詰)一回金拾錢				國

爲替振込局は本郷森川町郵便貯金爲替取扱所宛の事
爲替受取人名宛は東京本郷森川町一番地佛敎徒國民同盟會出版部とせらる

東京市本郷森川町一番地 佛敎徒國民同盟會出版部